

平成 27 年度 国際関係論専攻 研究助成金
調査・研究報告書

■ 受給者：B1466677 金川あゆみ

■ 所属：上智大学大学院グローバルスタディーズ研究科国際関係論専攻博士課程前期

■ 研究テーマ：日ソ姉妹都市関係における外交的意義—新潟市・舞鶴市の事例から—

■ 調査背景

本研究の研究関心は、冷戦構造において日ソが対立陣営にあり、国家間において友好関係を築くことが容易でない状況であったにもかかわらず、日本の地方自治体はなぜソ連の自治体と姉妹都市提携を締結したのかということである。無論この日ソ間における姉妹都市提携の動きは 1956 年の日ソ共同宣言が大きな影響を与えており、政府間外交が与える地方自治体への影響は大きいものといえる一方で、姉妹都市提携後の日ソ自治体同士の人的・経済的国際交流はめざましいものであり、政府に先立ち相手国との関係を深めていった。そのため、本研究では日ソ姉妹都市の中で初めて姉妹都市を締結した舞鶴市と、姉妹都市交流が盛んである新潟市を事例として考察し、姉妹都市提携をした理由及びこの姉妹都市関係に係る国際活動が日ソ間関係において外交的意義を持っていたのかということをも明らかにしたい。

■ 調査目的

本研究の目的は、日ソ姉妹都市を持つ舞鶴市と新潟市の国際活動を考察し、姉妹都市提携をした理由と、この姉妹都市関係に係る国際活動が日ソ間関係において外交的意義を持っていたのかということをも明らかにすることである。したがって、両市議会の当時の議事録や市役所関係文書を紐解くことにより、姉妹都市提携の経緯を明らかにしたい。また、姉妹都市事業を扱う部署の方にインタビューを実施し、提携当時の状況・真意、これまでの国際活動に関する障害や課題・その克服など、公式文書では残らない事実を明らかにしたい。

■ 調査内容

1 新潟市における現地調査（2015 年 9 月 13～18 日）

(1) 資料収集

- ・市議会議事録
- ・ウラジオストク市及びハバロフスク市との姉妹都市提携に関する文書（昭和 40 年～平成 15 年）

- ・ウラジオストク市及びハバロフスク市との姉妹都市交流事業に関する文書及び報告書
- ・日ソ／日ロ沿岸市長会議事録及び関連文書

(2) 聞き取り調査

- ・新潟市役所観光・国際交流部国際課（姉妹都市事業担当部署）係長へのインタビュー

ー

2 舞鶴市における現地調査（2015年9月23～27日）

(1) 舞鶴市役所における調査

- ・舞鶴市役所振興部観光まちづくり室みなと振興・国際交流課長、係長へのインタビュー

ー

- ・市議会議事録

(2) 舞鶴市内図書館における調査

- ・舞鶴市議会報

■ 調査・研究報告（調査によって何をどこまで明らかにしたか）

現地（各市役所・図書館）において、市議会議事録・関連文書・（地方）広報誌・インタビューの大きく分けて4つの項目について調査した。

まず市議会議事録について、姉妹都市提携に係る言質を得るほどの記録はなかった。ソ連に言及する箇所についても極めて限定的であったといえる。また、当時（1961以降）のものは大分古く傷んでおり、また手書きということなどから読むのが困難なものも多く、締結（1961年）前後からソ連崩壊（1991年）頃のものをすべて閲覧するには至らなかった。

新潟市役所における関連文書については、ソ連人の招へいやソ連への渡航についての文書、関係者のメモなどが残っており、新潟市にとって姉妹都市提携の目的が日本海の玄関口としての地位確立であったことが明らかになった。これは、市HP上で公表する提携理由とは異なっており、興味深い成果であるといえる。今後は、新潟市が海外への玄関口として力を注いだ国際活動が外務省等、政府に何らかの影響または干渉をもたらしたのではないかと、という疑問について調査していきたい。

広報誌について、日ソ姉妹都市関連記事は数多くあったものの、その内容は人的交流（市職員レベル及び市民レベル）がほとんどであり、目的とする成果は出なかった。しかし、広報誌が日ソ関連記事を掲載する紙面に対する割合や頻度を統計することにより、日ソ関係への関心の指標となるのではないかと考える。

最後に、市職員の方へのインタビューについて、国際活動に係る新潟市のイニシアチブが明らかとなった。例えば、新潟－ハバロフスク間定期空路に関しても、新潟市が主導となってソ連側と計画を立て、県を促し開設した。これは市が本研究の核心に触れるものであると考え、今後定期空路開設についても詳しく調査したいと考える。